

自転車競技者における競技成績と性格

マスコミュニケーションゼミナール 1213030 海老本 拓也

1. 研究動機・研究目的

筆者は高校・大学を含めた約7年間自転車競技をやってきた。その7年間で自転車競技の中において短距離種目に位置付けられているスプリントとケイリン、中距離種目である個人追い抜きやポイントレースと団体追い抜き、長距離種目であるタイムトライアルとロードレースといった短距離・中距離・長距離種目をそれぞれ経験してきた。経験していく中で勝負が決まる時の集中力の持続性やレース展開が目まぐるしく変化する中でメンバーとコミュニケーションをとってリーダーシップを発揮する状況など、各種目の身体的側面だけではなく心理的側面においても適切な性格特性があるのではないかに疑問を覚えるようになった。競技を終えるにあたりこうした疑問に自分なりの回答を見出すため「自転車競技者における競技成績と性格特性の関連について」の研究を行うことにした。

競技力と性格との関係について五藤ら(2007)は体操競技の選手を、井上(2010)はテニス選手対象とし、いずれも上位群は下位群に比べ「我が強く、自信がある」という性格特性が顕著であることを示している。このことから、自転車競技についても、それぞれの種目別のトップ選手の性格とそうではない選手に同様な差が予測される。また、種目毎に求められるスキルが異なることから、必要とされる性格特性が異なる可能性がある。本研究では、自転車競技者を対象に、種目と成績により性格特性が異なるかについて検討する。

2. 研究方法

調査対象：本研究による対象者は、第71回国民体育大会に出場している各都道府県代表のU23とジュニアの男子自転車競技者に該当する140名(内、有効回答数105名)

内訳：U23 47名 (短距離 15名 中距離 14名 長距離 18名)

ジュニア 58名 (短距離 22名 中距離 18名 長距離 18名)

上位 58名 (短距離 20名 中距離 20名 長距離 18名)

下位 47名 (短距離 17名 中距離 12名 長距離 18名)

調査期間：第71回国民体育大会の自転車競技日程である平成28年10月5日～平成28年10月9日の5日間

調査方法：自転車競技のU23とジュニアの短距離・中距離・長距離選手を対象に社会的外向性・活動性・共感性・進取性・持久性・規律性・自己顕示性・攻撃性・非協調性・劣等感・神経質・抑うつ性・虚構性の13尺度を含めた新性格検査(柳井ら, 1987)項目によるアンケート調査

3. 主な結果と考察

自転車競技者の特性を新性格検査で 12 尺度から検査したが、種目についてはどの尺度においても有意な差は認められなかった。しかし、持久性について競技力の上位群と下位群で有効な傾向がみられたものの種目間、競技間に有意差は認められなかった。よって有意な交互作用も認められなかった。

種目ごとに性格特性と上位群と下位群の差について検討したが、短距離では進取性のカテゴリ間、競技成績、カテゴリと競技成績の交互作用、自己顕示性の競技成績、神経質の競技成績に有意な差が認められた。この結果から進取性は上位群の U23、上位群と下位群に属しているジュニアの短距離に共通した性格特性と考えられる。短距離の上位群のほうが下位群よりも自分の存在を他人にアピールしたり、小心、繊細、物事によく気がつきやすい傾向がある可能性が示された。中距離においては、自己顕示性のカテゴリと非協調性のカテゴリ、カテゴリと競技成績の交互作用、抑うつ性のカテゴリと競技成績の交互作用に違いが検出された。中距離はジュニア選手の方が目立ちたがりだが、U23 の選手は他人と物事上手くやっていく傾向が示された。しかし、カテゴリや交互作用には有意差が認められたが、中距離に共通する性格特性は検出されなかった。長距離においては持久性の競技成績、抑うつ性のカテゴリ間で違いが検出された。長距離の上位群のほうが下位群よりも物事をやり続けることができる可能性が示された。また、長距離の U23 のほうが気分が落ち込みやすいことも分かった。中距離と同じで長距離においても共通する性格特性はあらわれなかった。

4. 結論

U23 とジュニアを含めた自転車競技者の性格特性は本研究からはあらわれなかった原因として 2 つのことが挙げられる。1 つ目は、本研究のアンケート調査した場所が国民体育大会であったことから競技成績について選手間であまり差がなかったため先行研究のように明確化されていなかった。2 つ目は、要因数と比較してそれぞれのデータ数が少なかったことが考えられる。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文を執筆するにあたり、多くの方々のご指導、ご協力を賜りました。この場を借りて心より感謝を申し上げます。特に、ご多忙の中、最後まで熱心にご指導いただきました神原直幸先生、卒業論文に悪戦苦闘しているなか励ましてくれたゼミナールの仲間がいなければ、私の卒業論文は終えることができなかつたと思います。また、アンケート調査にご協力してくださった国民体育大会に出場した各都道府県代表の U23 とジュニアの男子選手、その他ご協力を頂いたすべての方々へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。